

令和8年度 自己評価計画書

							石川県立金沢北陵高等学校	
重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1 本校のスローガンである「時を守り、場を清め、礼を正す」を全生徒が意識し、自ら考え行動できるよう、粘り強く働きかける。	① 時間厳守の指導を徹底し、遅刻・欠席者数の減少と皆出席を奨励する。また、日々の学校生活を中心に登校指導や集会などを活用して挨拶のさらなる励行を推進する。	生徒指導 学年 各教科	令和7年度の結果では「自ら時間を意識した行動をとることができる」が95.6%、「自ら進んで挨拶ができる」が93.5%と高い割合で達成できた。特に挨拶については生徒自ら声掛けする場面が着実に増加しており、来校者からも高評価を受けている。	【成果指標】 (生徒) 学校生活において、自ら時間を意識した行動をとることができる。	自ら時間を意識した行動をとることができる。 A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	それぞれA+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
				【努力指標】 (生徒) (保護者) (教員) 生徒自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶ができる。 A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	それぞれA+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーのさらなる向上を目指す。	生徒指導 学年	令和7年度は生徒99.1%、保護者92.2%と高い割合であったが、教職員の回答は58.3%と一昨年度からは改善されたが依然大きな隔りがある。	【満足度指標】 (生徒) (保護者) (教員) 様々な機会を捉え、学校生活や公共交通機関での自発的な規律・マナーの遵守に努める。	公共交通機関におけるマナーを守っていると回答した生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	それぞれC、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
				【努力指標】 (教員) 生徒理解を心がけ、生徒の不注意な行動の未然防止のための早期指導に努めている。	生徒理解に心がけ、不注意な行動の未然防止に努めている。 A よくできている B だいたいできている C 十分できていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
	③ 生徒を注意深く見守り、面接や保護者との連絡をより密にし、生徒理解を深める。	生徒指導 学年	令和7年度は93.5%となり、各教員が生徒理解に努めるとともに、個に応じたきめ細かな指導を行っている様子が伺える。	【努力目標】 (教員) いじめ等の早期発見、早期対応に努め、学校全体で組織的に取り組んでいる。	いじめ等の早期発見、早期対応に努め、学校全体で組織的に取り組んでいる。 A よくできている B だいたいできている C 十分できていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査	
				保健相談 学年	令和7年度は95.8%であった。いじめアンケートや面接を通して、生徒の状況をしっかりと把握し、適切に相談や支援を行っている。	いじめ等の早期発見、早期対応に努め、学校全体で組織的に取り組んでいる。 A よくできている B だいたいできている C 十分できていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 研修等の積極的な受講を通して、教員としての資質向上を図り、ICTを活用した授業改善、授業評価の充実と、生徒の学習意欲の向上に努める。	① 教科指導のみならず生徒指導や特別支援などの研修を積極的に受講し、教員としての資質向上に努める。	教務 各教科	令和7年度は87.5%と目標を下回った。校内外の研修等への参加を促すことで、実際に参加している教員は年々多くなっており、資質向上に繋がるよう努めている。	【努力指標】（教員） 研修等を積極的に受講し、教員としての資質向上を図る。	教員の資質向上につながるよう研修等に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② ICTを活用した研究授業や公開授業を積極的に行い授業の改善に努める。	教務 各教科	ほとんどの教員が授業でICT機器を活用している。今後は、個別最適な場面での効果的な活用と工夫が求められている。	【努力指標】（教員） ICT機器の効果的な活用や工夫に努め、研究・公開授業・授業参観などを実施する。	ICT機器の効果的な活用に努めている教員の割合が A 80%以上である B 70%以上～80%未満である C 60%以上～70%未満である D 60%未満である	C、Dの場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	令和7年度は79.2%と目標を下回った。生徒の発言や活動を促す授業展開を図り、わかりやすい授業のためのさらなる工夫が必要である。	【努力指標】（教員） 互見授業を実施し、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。	生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	④ 家庭での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	令和7年度は59.5%であった。考査試験前は勉強に励むが、日常の学習時間が減少している状況が続いている。家庭学習を前提とした授業展開の工夫や日々の学習習慣を構築するための方策が必要である。	【成果指標】（生徒） 自主的な授業以外の時間での学習を継続的に取り組むことができた。	授業以外の時間での平均学習時間が A 90分以上である B 70分以上～90分未満である C 55分以上～70分未満である D 55分未満である	A+Bの合計が60%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	年5回調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 「自分を知り、社会を知り、将来の自分を考える」ことのできる生徒の育成を目指し、キャリア教育の一層の推進を図る。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	進路指導 教務 学年	多様な進路希望が存在しており、それぞれ適切に対応するために組織的な指導体制のさらなる強化と生徒一人ひとりに対するきめ細やかなガイダンス機能の充実が求められる。	【努力指標】（生徒） 個人面談を通して、自分に合った進路目標をより明確に定めることができた。	個人面談を通して進路目標を明確に定めることが A 十分にできた B だいたいできた C あまりできていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が 90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12 月末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路指導の行事や「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	進路指導の行事や「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの合計が 85%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12 月末に調査
				【成果指標】（生徒） 進学志望の生徒が希望する上級学校に合格することをより重視する。就職については、早期に内定率100%となるよう指導する。	上級学校志望者のうち生徒が希望した学校に合格した割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 学校推薦による就職希望者の内定の割合が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	Dの場合、次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
3 「自分を知り、社会を知り、将来の自分を考える」ことのできる生徒の育成を目指し、キャリア教育の一層の推進を図る。	② 各種資格・検定試験に挑戦する意欲を喚起するとともに、補習体制などの環境整備に取り組むことで受験者数と合格者数の増加を目指す。	各教科 学年 進路指導	昨年度、各種資格・検定試験を取得・合格した生徒は673名となり、震災前の取得数近くまで回復した。今後は生徒数減少の影響を鑑みながら判定基準等を検討する必要がある。	【成果指標】（生徒） 各種資格・検定試験に多くの生徒が挑戦し、取得・合格数を増やす。	新たに資格・検定を取得・合格した生徒の延べ人数が A 550人以上であった B 500人以上～550人未満であった C 450人以上～500人未満であった D 450人未満であった	Dの場合、次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	③ 保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	進路指導 学年	学校からの進路に関する情報提供について満足している保護者は多い。さらに、それぞれの学年に応じた進路情報を適切に発信していく必要がある。	【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されている。	進路について、提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が 90%未満の場合 次年度の取り組みを再検討	7月、12 月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 学校の活性化のために、部活動や地域ボランティアの活性化を図るとともに、学校の魅力を発信する取組を充実させる。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	特活 全職員	令和7年度の部活動加入率は70.0%で辛うじて目標を達成した。部活動での満足感や達成感を持っている生徒は77.4%であった。生徒数が減少し、部活動の維持が難しい状況であるが、生徒がより主体的に取り組めるような環境整備と指導上の工夫が求められる。	【成果指標】（生徒） 部活動への加入率を高め、充実した高校生活になるよう支援する。	部活動への加入率が A 90%以上である B 80%以上～90%未満である C 70%以上～80%未満である D 70%未満である	Dの場合次年度の取り組みを再検討	5月、10月に調査
				【満足度指標】（生徒） 生徒が部活動に主体的に取り組む切磋琢磨することを通して、豊かな人間関係を築き、達成感を得る。	部活動に対し満足感・達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上～80%未満である C 60%以上～70%未満である D 60%未満である	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② 地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活	ここ数年間は天候のためボランティア活動が制限されたこともあり、参加数は減少したが、参加者の満足度は高い。今年度は時期をより見定め活動を継続する。	【成果指標】（生徒） 地域の清掃活動や行事、ボランティア等に参加する。（「北陵アバンテ」を含める）	ボランティアに参加した生徒が活動に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【満足度指標】（保護者） 保護者が本校の教育活動全般を理解し、満足している。	本校の教育活動を理解し満足している保護者が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 信頼される学校づくりに努める。	総務 学年 生徒指導 保健相談	令和7年度「満足している」保護者は92.5%であった。今年度もより多くの方々に理解を頂けるよう、家庭と学校が一体となった学校づくりに努めていく。	【成果指標】（教員） 本校の特色や生徒の活動が、ホームページなどで積極的に発信されている。	発信しているとする教員の割合が A 95%以上 B 85%以上95%未満 C 75%以上85%未満 D 75%未満	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
				【成果指標】（生徒）（教員） 自然災害等緊急時に対して適切な行動をとることができる。	緊急時に対して自ら考えながら「自分の命を守る」行動をとることが A 十分にできた B だいたいできた C あまりできなかった D ほとんどできなかった	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
5 教員・生徒がともに危機管理意識を高め、緊急時に適切な行動がとれるよう、防災教育の推進を図る。	① 避難訓練や防災に関する研修などを通して、自然災害や緊急事態に備えた防災教育活動を進めていく。	防災担当 全職員 学年	令和6年能登半島地震による地盤の崩落によって校舎やグラウンドの一部が使えない状況が続いている。復旧工事も継続して行われている。	【成果指標】（教員） 教員は効果的な業務遂行に向け日々改善に努めている。	効果的な業務改善に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
6 働き方改革の趣旨を踏まえ、教員の意識と行動の改革を進め、より効率的、効果的に業務が遂行できる組織的な改善策を見いだせるよう努める。	① 月間や週間目標を設定し、それぞれが計画的に業務を進める。	全職員	令和7年度は95.8%であった。さらに業務上の情報共有を進め、より効果的な業務改善と教育活動の充実を図っていく。	【成果指標】（教員） 教員は効果的な業務遂行に向け日々改善に努めている。	効果的な業務改善に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査